

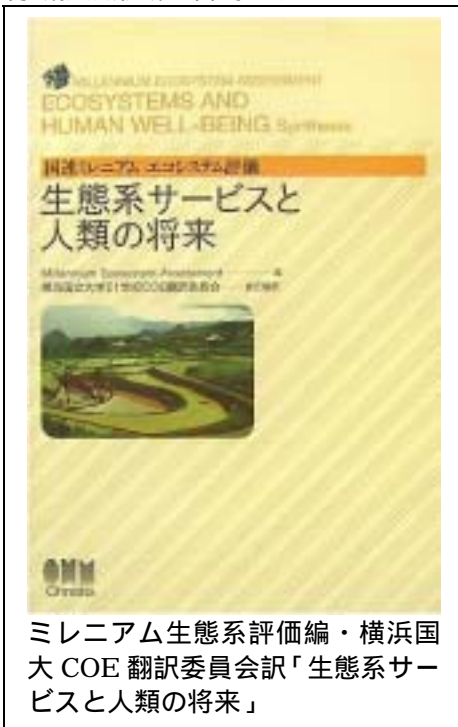
# アジア視点の国際生態リスクマネジメント

横浜国立大学大学院環境情報研究院自然環境と情報部門・環境情報学府環境リスクマネジメント専攻 および  
国立環境研究所（環境リスク研究センター，地球環境研究センター，循環型社会廃棄物研究センター）

本グローバルCOEプログラムでは、21世紀COEプログラムをはじめとする横浜国立大学の多くの実績を踏まえ、国立環境研究所と連携し、人口増加や経済発展に伴って生態系の破壊と生態系サービスの劣化が著しいアジア発展途上国等の生態リスクの適切な管理に貢献するため、国連ミレニアム生態系評価(MA)にアジア視点を加えた国際的なリスク管理の理念・基本手法・制度を解析して提示するとともに、アジア等の森林植生・土壌等の生態系機能を調査・解析して外来生物管理を含めた具体的な順応的リスク管理手法を提示し、農薬・肥料・有害物質管理、遺伝子操作作物利用、廃棄物循環利用等、具体的な実践的なアジア途上国の生態系サービスのリスク管理手法を開発・応用し、これらの「基礎研究」と具体的な「事例応用研究」、新たな政策アイデアに基づく「社会制度提案」の3者を繋げる研究者・行政・企業・市民のネットワークを国際的に構築し、それらを基に、以下に示す訓練を積んだ若手研究者等の国際的な人材育成拠点形成を目的とする。



丹沢長期研究調査地



ミレニアム生態系評価編・横浜国立COE 翻訳委員会訳「生態系サービスと人類の将来」

## 【拠点形成計画の概要】

欧州中心の予防原則と米国中心の順応的管理の国際的対立が、環境政策の諸分野で見られる。この対立は、政策の基盤となる「環境リスク管理学」が科学として未熟であること、特に、未実証段階で対策を講じる予防原則には順応的な事後検証が必要であり、また不確実性を考慮した順応的管理は必然的に予防的リスク管理となるという順応的リスク管理の視点、および生態系サービスの高度利用と生態リスクとの共生および慣習・自主協定による資源管理が不可欠であるアジア途上国の視点が欠落していることによると考えられる。

そこで、本計画では、21世紀COEで提示した順応的リスク管理の理念と基本手順を発展させ、国際的な新しい基本手法を確立し、また、蓄積した多くの学術基盤情報やネットワークを活かしてさまざまなアジア等途上国の具体的な環境リスク管理問題に応用し、日本で初めて設置した「環境リスクマネジメント専攻」の経験を全学に適用し、世界で活躍する人材の育成拠点の形成を目指す。

すなわち、教育計画としては、自ら新しい領域を開拓する創造性の醸成とともに、広い視野に立った客観的分析と総合に基づくシナリオ構築能力の養成、内外のネットワーク形成能力ならびに社会活動における交渉能力の向上を重視した国際的に活躍する若手研究者等を育成する全学的な「環境リスク学国際教育課程（仮称）」の設置を図る。このため、21世紀COEで実施していた文理融合型の10科目の講義・演習・道場と若手中心の国際ワークショップ

の企画経験を踏まえて、博士課程学生等に海外経験や異分野経験・交渉経験等の実践的訓練カリキュラム及びCOEフェローDCの公募や海外派遣・招聘などの各種の経済的支援制度を構築する。

また、研究計画としては、次元の異なるリスクの比較衡量、多様な主体の協働、有害物質や資源利用への影響評価技術などに適用する順応的リスク管理手法の提示と具体的適用、生態系機能、外来生物・生物多様性等にかかわる生態リスクの評価・予測・管理のためのシナリオの構築・提案と応用、および世界中のデータ提供者との信頼関係を構築した生態リスク管理に関する環境科学・行政のための知的情報基盤の構築・整備を図る。

以上のような国際的教育研究拠点を形成するため、運営体制として、(1) 理念・方法論教育研究グループ（代表松田）、(2) 生態系機能教育研究グループ（代表金子）、(3) 生態系サービス教育研究グループ（代表佐土原）、および各グループ代表者と教育担当副学長、環境情報研究院長等か

以上のような国際的教育研究拠点を形成するため、運営体制として、(1) 理念・方法論教育研究グループ（代表松田）、(2) 生態系機能教育研究グループ（代表金子）、(3) 生態系サービス教育研究グループ（代表佐土原）、および各グループ代表者と教育担当副学長、環境情報研究院長等か



横浜国立大学と横浜市街地

## ISI大学ランキング

2001-2005（朝日新聞社）

生態、環境学分野		
大学	引用度指数	
1	横浜国立大	125.9
2	愛媛大学	123.2
3	静岡県立大	117.4
4	熊本大	117.1
5	岡山大	114.3
6	静岡大	112.4
7	京都大	110.5
8	東北大	109.2
9	農工大	109.1
9	新潟大	109.1

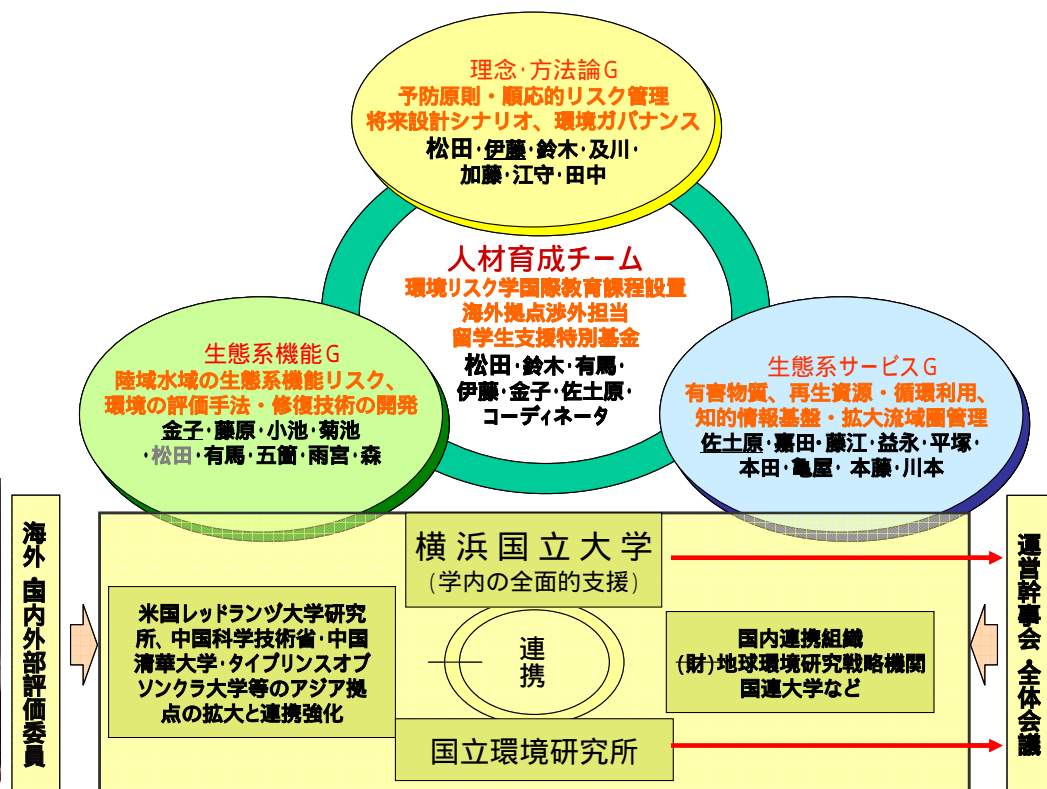
らなる**国際人材育成チーム**（代表鈴木）を作り、横浜国立大学と国立環境研究所の両者から構成される**定期的な運営幹事会と全体会議**を通じて、相互に密接な連携を図る。また、21世紀COEで連携・交流協定を締結した中国清華大学、タイ国プリンスオブソクラ大学、米国レッドランズ大学、(財)地球環境戦略研究機関、国連大学などの**連携大学・研究機関**、**本学出身のアジア等**で活躍する人材ネットワークを構築し、行政、企業、NPOなどの**国際的ネットワーク**を通じて、**基礎・応用・実践**の三者を一体のものとして取り組み、また、**国内・国際両外部評価委員会**を設けて頻繁に意見を求めて改善を図る。なお、アジアの農業管理等重要な分野については全学教員枠で任期付教授を補強し、本プログラム全般の課題についてはテニュアトラックである特任教員（助教1名）およびCOEフェロー(PD)を**国際公募**する。また、大学の国際交流会館・留学生会館・国際交流奨励事業や国際協力事務等の**国際協力関連部門の拡充・強化**を図る。



学長 飯田 嘉宏  
(IIDA YOSHIHIRO)



Hiroiyuki Matsuda  
(Leader) 松田裕之



**推進担当者**

(横浜国大・国立環境研・他)

- 松田 裕之教授 (リーダー)  
 理念方法論グループ  
 鈴木 邦雄教授 (副学長)  
 伊藤 公紀教授  
 及川 敬貴准教授  
 加藤 峰夫教授  
 田中 嘉成室長  
 江守 正多室長  
 大野 勝弘フェロー  
 林 岳彦フェロー

**生態系機能グループ**

- 金子 信博教授  
 有馬 眞教授 (院長)  
 藤原 一繪教授  
 小池 文人准教授  
 雨宮 隆准教授  
 菊池 知彦教授  
 五箇 公一首席研究員  
 森 章 助教

- 三村 真紀子フェロー  
 黒川 紘子フェロー  
 井上 真紀フェロー

**生態系サービスグループ**

- 佐土原 聡教授  
 益永 茂樹教授  
 藤江 幸一教授  
 亀屋 隆志准教授  
 本田 清准教授  
 平塚 和之教授  
 本藤 祐樹准教授  
 嘉田 良平教授  
 川本 克也室長  
 黄 仁姫フェロー  
 田中 貴宏フェロー  
 Md.Ahsan Habib フェロー

**研究協力者**

- 馬奈木俊介准教授  
 酒井暁子助教  
 竹中明夫領域長  
 佐藤哲教授(長野大学)

- 牧野光琢博士(中央水研)  
 川崎昭如博士(国連大学)  
 金子正美教授(酪農大学)

**旧メンバー**

- 金 倫明フェロー( ~2008.2)  
 大久保奈弥旧フェロー( ~2008.3)  
 河内 香織旧フェロー( ~2008.3)  
 ラジェンドラン博士( ~2008.3)

**企画調整員**

- 立川賢一博士  
 田口健太郎博士  
 15 COE-リサーチアシスタント (博士課程院生)

**Advisors**

- Hempel 教授 (レッドランズ大学)  
 Ulf Dieckmann 教授 (IIASA)

**公式ホームページ**

<http://gcoe.eis.ynu.ac.jp>

本 COE 公開掲示板

<http://bbs.eco-risk-coe.jp/>